

## インターバンクの声（2014年10月30日）

米連邦準備制度理事会（FRB）は28日、29日の2日間にわたり連邦公開市場委員会（FOMC）を開催、市場予想通り量的緩和第3弾（QE3）の終了を決定した。声明文は冒頭から労働市場の改善を示し、雇用の増加と失業率の低下を認めながら労働力の活用不足が解消されつつあるとしている。もっとも資産購入プログラム終了後も相当な期間にわたってフェデラルファンド（FF）金利誘導目標を現在の0%から0.25%のレンジで続けることが適切としており、引き続き雇用とインフレ動向が当局と市場の注目であり続けることに変わりはない。このFOMCの発表を受けたドル円相場は、前日のニューヨーク市場の朝から24時間以上継続して108円ちょうど前後での値動きから1円近くドルが上昇した。109円台乗せは一旦見送られている格好だが、もう一度トライしてみるにはまだ十分近いレベルなので、主体性のないアジア市場でも仕掛けてくる動きがあるかも知れない。前回110円台に乗せた後には大きな調整を見ているが、2度目の110円乗せが目の中の事実になるのか、来週の米雇用統計発表まで待つことになるのか、いずれにしろ再びドル円相場が面白くなってきた。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。